

福本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年5月4日（土）
活動隊員：松田 朋子、佐々木 久美子

1. 活動期間

2024年4月30日（火）8時30分～2024年5月2日（木）16時

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

仮設住宅：正院町第1団地（珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地）

宝立町第1団地（珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83）

3. 石川県珠洲市の被害状況（4月30日14:00現在 石川県庁情報）

人的被害 死者：103人 うち災害関連死：6人 負傷者：重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊：7,375棟 非住家被害：4,924棟

通水率 41%

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校：20人

宝立小中学校：未確認

【避難所運営及び生活状況】

1) 大谷小中学校避難所

訪問日時：4月30日（火）14時頃

訪問時、本部長とお会いし現状についてお話を伺った。

運営体制の変更や避難者数の増減はなく、運営状況は落ち着いている。食事もお弁当の配布や、キッチンカー・炊き出しによる提供が行われている。

日中はほとんど避難者がおらず、自宅の片付けや買い物に出かけられている。訪問時滞在していた避難者は2名であった。社会福祉協議会による送迎や自家用車で市内の銭湯や自衛隊のお風呂へ行かれている。また、避難所内のシャワーも利用されている。

駐在している消防職員によって避難所内の環境も清潔に保たれ、整理整頓されていた。

2) 宝立小中学校避難所

訪問日時：5月1日（水）15時頃

訪問時、本部長はじめ避難所運営本部員とお会いし、現状についてお話を伺った。

日中は避難所内に避難者は不在となるため、以前まで行っていたシルバーリハビリ体操なども現在は行っていないとのことであった。

現在は地域での催し事の再開や、外部からのボランティアによる活動に被災者も参加するなど、被災者同士や被災者と支援者の交流を図るような計画を立てるなどしていた。集会所の活用について、いつごろ使用できるようになるのかという声も聞かれた。今後、集会所を活用した交流の場を検

討していきたいと考えられていた。

5. 仮設住宅の状況

【正院町第一団地：正院小学校グラウンド 76 戸】

訪問日：4月30日（火）5月1日（水）2日（木）

団地の棟毎に入居者の名前が掲示されている。正院地区の民生委員や婦人会に所属する人など、被災住民が中心となって集会所におけるお茶会が行われている。

【宝立町第1団地：宝立小中学校グラウンド 153 戸】

訪問日時：5月2日 10 時頃

4月8日より順次入居が開始されている。正院町第一団地と同じく、団地の棟毎に入居者の名前が掲示されている。各棟は北に玄関、南に大きな窓と縁側がある。縁側のある大きな窓には、洗濯竿を設置するアームが取り付けられている。玄関側には棟の東西を繋ぐようにデッキが設置されており、階段が付いている。A～C 棟にはスロープが設置されているが、D 棟にはない。玄関前のデッキや棟と棟の間の通路にプランターを置くなどして、花を育てているお宅もあった。玄関先等で住民同士が立ち話をする姿も見られた。団地内には集会所もあるが、現在はまだ使用されていない。

6. 支援活動の実際

【避難所巡回支援：大谷小中学校】

体調不良者はでていない。継続的に血圧と体重を測定している避難者が血圧手帳を失くしてしまったとのことで、新たに作成した。訪問してくる派遣者の名前をメモするなどして、派遣者との関わりを大切にしてくださっている。

【仮設住宅支援：正院町第一団地】

n お茶会開催

開催場所：正院町第一団地集会所

開催時間：10 時～12 時（数人は後片付け、翌日の計画等のため 13 時前後の終了となった）

参加者数：4月30日（火）18 名、5月1日（水）11 名、5月2日（木）14 名

4月30日（火）：本日は支援団体から花の提供があるためか、いつものお茶会より多く参加者があった。また、参加者の方々のお話しがひと段落つき、花が到着する待ち時間を利用してシルバーリハビリ体操が行われた。シルバーリハビリ体操の指導員資格をもつ住民の方からの声かけにより、自分の体力に合わせ体を動かしていた。この体操は避難所から継続して実施されているもので、参加者の方々は楽しそうに取り組んでいた。参加者から血圧測定の希望があり 11 名の血圧測定を行い、希望者には血圧手帳を渡した。アルファ米のおいしい食べ方を明日のお茶会で実施する提案があり、集会所にあるアルファ米を使って実施することになった。

5月1日（水）：アルファ米のおいしい食べ方講座が実施された。参加者が自ら炊飯器を持参し、数名の方が中心となり実施した。参加者の方々は、アルファ米が配られたが使わずに置いたままになっているという人が多数いたため、調理方法を具体的に説明されていた。例えば、炊飯器の保温機能を使って一気に複数名分調理する方法や、袋のままで 1 人分を調理する方法については、お湯を入れた後にしっかりと混ぜることがポイントであると説明されていた。また、アルファ米ができるまでの時間を利用して、仮設住宅での困りごとや今後お茶会でやりたいことについてメモ用紙に記載し

ていただいた。なお、メモ用紙は、早めに来てくださった参加者の方に紙を切ってメモ用紙を作っていたいただき、切った紙に絵を描くなどしてアレンジをお手伝いしていただいた。お茶会でやってみようことを話していた時、正院町第一団地ではキッチンにIHが設置されているが、天ぷらをしようと思ったが温度が上がらずうまくできなかったという声から、材料を持ち寄ってIHを使用した天ぷら講座を行うこととなった。

5月2日(木): 仕事のためお茶会には参加しないが「タケノコ」「油」を持ってきてくださったり、また、家に植えている「ウド」を持ってきてくださったりと、材料を持ち寄っての天ぷら講習会であった。また、おにぎりも作ることになり、前日の講習会での学びを生かしアルファ米のおにぎりを握り、天ぷら等と共にみんなで食事をした。

お茶会は学会が主体となって実施していたが、これまで地域の役割を担っている方々が積極的に声を出し、それに加えて参加した住民の皆さんが、自然に自分たちができること、自ら何かをしようという原動になっていると思われた。例えば、来た人にお茶を入れようとする人、掃除をしてくれる人など主体的に動く姿が見られた。また、仮設住宅に入居後、自身が住んでいる仮設住宅の場所がわからない方も参加されていたが、その方のこれまでの生活経験(元々精肉店で天ぷらを揚げる仕事をしていた)が活かされ、天ぷらの油切りについて教えてくださるという場面もあり、うれしそうな表情が見られた。

【仮設住宅支援：宝立町第一団地】

n 入居者訪問：5月1日(水)14時30分～15時50分、5月2日(木)9時30分～11時

5月1日(水): 避難所本部長より気になっている方を教えていただき訪問したが、不在のためお会いすることができなかった。この日は、16時に次週のお茶会のチラシの印刷を予定していたため、翌日に再度訪問し、仮設住宅に入居して困っていることがないか、また現在の体調の確認をすることとした。

5月2日(木): 前日教えていただいた方々を中心に訪問を行った。若い世帯は、平日昼間は留守にされており、お会いすることができない状況であった。また、仮設住宅での生活が始まりまだ1ヶ月も経過していなく、中には数日前に入居したという入居者もおられた。居住場所の移行期にあり、徐々に住居内の環境を整え、新たな住まい方を模索している様子であった。そのような中であっても一部の住居前にはプランターを設置するなど、日々の楽しみについても徐々に整えている様子がうかがえた。

また、仮設住宅団地のところどころで井戸端会議をしている様子も見られた。その会話に参加させていただき、仮設住宅に住んでみて「困っていること」がないか聞いたところ、「元々グラウンドだったこともあり水捌けが悪くなく、雨の後は至る所に水溜りができている」ということであった。そのため、玄関前のデッキに水が溜まっている、スロープを降りたところに水溜りができ水溜りの中を歩かなければならないという話を聞き、健康増進センターに報告した。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所支援】

日本災害看護学会が大谷小中学校避難所支援の時から継続して健康状態の確認をさせていただいている方がおり、現在は週に1度の健康チェックではあるが、支援者に対して笑顔で迎え、ご自身の身体状況についてお話しくださり、継続的に関わりを持つことの大切さを改めて認識させていただ

いた。今後も、引き続き継続的に訪問し避難所に滞在している避難者との交流を大切にしながらも現在の健康状態等を観察し、予防を視野に入れた活動を展開する必要があると考える。

宝立町第一団地訪問時にも避難所の運営本部で日中は避難者が誰もいなくなると聞いており、避難所だけでなく地域全体での交流の場などが必要であると感じた。先日、宝立町で行われた桜祭りも大盛況に終わり、それぞれに居住場所が変わった避難者同士が久しぶりに顔を合わせて「久しぶりやねえ」と会話を交わす様子が見られたとのことであった。こうした地域のイベントについても再興していく様子を見守っていきたい。

【仮設住宅支援】

正院町第一団地では二期に入居された方々も 1 ヶ月が経過し、現在の住居に少しずつ慣れてきた様子であった。また、正院地区住民の一部は蛸島小学校グラウンドに設置された仮設住宅に入居しており、参加者は団地内に限らず正院地区としての活動が継続されている。従前のコミュニティのつながりを活用して、新たなコミュニティにおける被災者の暮らしの再建について継続した支援が必要であると考えます。

また、お茶会を通してコミュニティ活動への主体的な関わりの様子を見ることができた。お茶会を主催するキーパーソンのみならず、参加者一人一人が主体的に参加していた。さまざまな催しを通して、主体的な活動への参加を促す環境を整え、地域参加の機会を提供していきたい。宝立地区についても、同様に地区のキーパーソンと共に主体的な活動への参加を促す環境整備について検討していきたい。

参考：現地の様子



集会所での揚げ物講座の様子



宝立町第一団地
水溜りになっていた所が砂で白くなっている